

# 特色ある学校

## 「類 - 系」システム設置から20年を超えて

鹿児島県立鹿児島工業高等学校長 野元 信一郎

### 1. はじめに

本校は明治41年に鹿児島郡立工業徒弟学校として創立され、大正9年に鹿児島県立工業学校となる。その後、昭和24年に鹿児島県立鹿児島工業高校と改称され、今年度で創立104年目を迎えている。現在は1年生が工業Ⅰ類6学級、工業Ⅱ類3学級、2・3年生は電子機械系、電気技術系、情報技術系、工業化学系、建築系、建設技術系、インテリア系の7系9学級で学ぶ類 - 系システムをとっている。「精進」、「創造」、「誠実」の校訓のもと、「学力の向上」、「心身の向上」、「礼儀の向上」の3向上を教育活動の重点目標に掲げ、科学技術の高度化と国際化の時代に対応できる工業技術者の育成をめざしている。



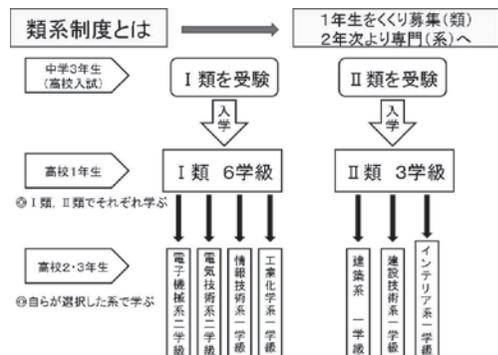
### 2. 「類 - 系」システムについて

#### (1) 設置の経緯

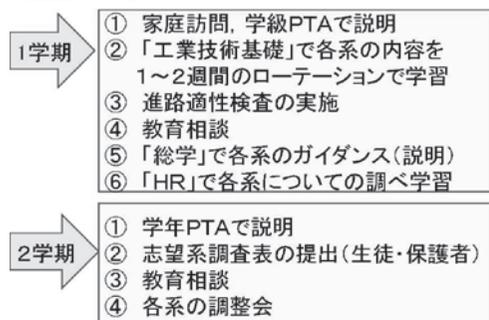
平成3年度、従来の専門性の強い学科の枠をはずし、幅広い選択学習を可能にする全国でも初めての「類 - 系」システムを設置した。従来設置されていた機械科・電気科・建築科・土木科・インテリア科・工業化学科12学級の募集を停止し、新たにⅠ類6学級とⅡ類4学級の10学級でスタートしたものである。これは、近年の産業構造が、専門分野が互いに密接に関連したものになっていることから、工業高校における専門教育として、広い分野の領域の学習を通じた幅広い知識と技術の習得を目的としたものであった。

#### (2) 「類 - 系」の概要

生徒はⅠ類またはⅡ類のいずれかの類で入学し、1年次は各類において、工業全般にわたる基礎的・基本的な内容と普通教科を共通履修す



## 系選択の流れ



る。「類」は極めて関連の深い分野の一つにまとめたもので、Ⅰ類は、「情報及び生産に関する領域」、Ⅱ類は、「建設及び環境に関する領域」である。そして、生徒は、自らの適性や興味・関心を見出し、学力の向上に努めながら、2・3年次は、その「系」において普通科目のほか、その専門分野の内容を学習する。

これらの系選択にあたっては、1年の1学期に「工業技術基礎」の時間に各系の実習内容を中心に体験・学習し、教育相談や各系の調べ学習を通して学習内容、資格取得、進路先等について学習する。そして、家庭訪問、PTA、教育相談等を繰り返しながら2学期末に「類」に属する各「系」の中から一つの「系」を選択する。

また、2年次以降の科目の履修においては、自分が在籍する系以外の「系」(同一類内)の科目を4科目8単位以内で選択履修することができるようになっている。そして、進学希望者等は、普通科目を5科目8単位以内で選択履修することができるカリキュラムとなっている。つまり、「系」は、従来の専門的傾向の強い学科とは異なり、むしろ学習内容に弾力性を持たせたもので、他系及び普通教科の履修にまで幅を広げた選択を可能にしている。

### (3) 成果と課題

成果としては、中学生の「類-系」システムに対する関心が高く、平成23年度入学学力検査の定員に対する出願者数がⅠ類1.41倍、Ⅱ類1.54倍と高い倍率となり、高い学力の生徒も多

く入学してくる。入学後の学習への取組にも意欲的な面がみられ、各種検定・資格試験においては、ジュニアマイスター顕彰制度の認定者数が過去10年間で4回、全国1位になり継続した実績を納めている。

また、専門系への理解・知識不足や興味関心の変化等により、入学時の希望系がそのまま2年次への系選択にはなっていないケースもあるが、本校の「類-系」システムは「工業技術基礎」や「総合的な学習の時間」等で実際に「系」を体験し、教育相談等で進路先を確認しながらの決定となるので、以前の学科制より専門に対し、卒業後の進路を見据えた目的意識をもった学習意欲が感じられる。

課題としては、専門科目の履修が「系」となる2年次から本格的に始まるため、3年次9月中旬の就職試験の時点では、他校に比べ専門分野の学習に遅れがあり、試験に不利になることがある。また、資格検定試験についても同様なことがいえる。このようなことから、専門系職員からは1年次の後半から専門教科に係る学習を取り入れるなど、科目の履修に工夫が必要との意見が多い。

## 3. ジュニアマイスター顕彰への取組

### (1) 校内での位置づけ

本校が類-系システムを導入して10年を経た平成13年に全国工業高等学校長協会によるジュニアマイスター顕彰制度が始まった。

本校においては教育活動の重点目標として三向上の一つとして「学力の向上」を掲げ、その達成のために授業を第一主義とし、分かる授業を推進するとともに、ものづくり教育と資格取得も学力の向上に位置づけて推進している。

この中で、資格取得については、入学してきた1年生全員に進路指導部が作成した「資格・検定試験の案内」の冊子を配付し、ジュニアマイスターの取得を奨励するなど、目標を明確に

している。

そして、取組においては「継続は力なり、そして努力は報われる」を合い言葉に次のような取組目標を掲げ、生徒一人一人の意識を高めている。

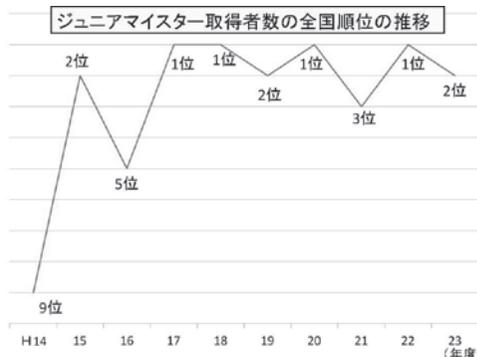
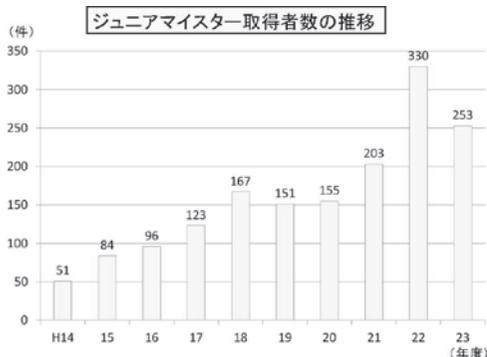
- ア 強い気持ちで、計画的に取り組む
- イ 好機を逃さず挑戦する
- ウ 受験料を無駄にしない、1回で合格する
- エ 希望する将来を見据えて挑戦する
- オ 高校生の内取得を目指す
- カ 待つのではなく、自ら行動する
- キ 補習のみに頼らず、自主的に取り組む

(2) ジュニアマイスターの取得状況

平成14年度からの10年間をみると、17年度以降は、取得者が毎年100名を超えるようになり、22年度には、330名となっている。

また、ここ5年間の平均では、年間220名の生徒が取得している。1学年360人の生徒数の規模であることを考えると大半の生徒がジュニアマイスターを身近なものとして捉えての取得に挑戦していることが分かる。今後は、学級目標として「全員のジュニアマイスター取得」を掲げる場面を期待している。

さて、全国工業高校長協会から毎年発表されるジュニアマイスターの取得者数によると、本校の過去10年間の取得者数の合計は毎年、10位以内と安定している。この間、全国1位が4回あり、在校生にとっては、ひとつの目標として励みになっている。



また、本校を志望してくる中学生の中には、その理由に「多くの資格を取得したい」とする生徒も多く、このことは、本校の学習活動への期待が大きいことが窺える。

(3) 鹿児島県全体の取得状況

平成23年度の「ジュニアマイスター顕彰制度」の都道府県別申請者数は長崎県について全国2位であった。その中で、45点以上の申請者に与えられるゴールドの称号を得た生徒が283人と全国1位の実績をあげている。県工業部会主催で県内の工業高校生を対象に夏季休業中に実施されている「第三種電気主任技術者」、「基本情報技術者」、「甲種危険物取扱者」などのハイグレードセミナー（難関資格講座）がゴールドの称号取得への意識を高めていると思われる。また、シルバーの手前の20～29点の生徒には本県独自のマイスター顕彰制度を設けていることも一因としてあげられる。

平成23年度「ジュニアマイスター顕彰制度」申請者の県別状況

都道府県	申請者数	ゴールド	シルバー
1 長崎	740	220	520
2 鹿児島	717	283	434
3 愛知	628	203	425
4 福岡	615	203	412
5 熊本	607	201	406
6 宮崎	408	141	267
7 青森	392	121	271
8 大分	384	162	222
9 岡山	329	75	254
10 北海道	325	92	233

## 4. 「類一系」システムから20年

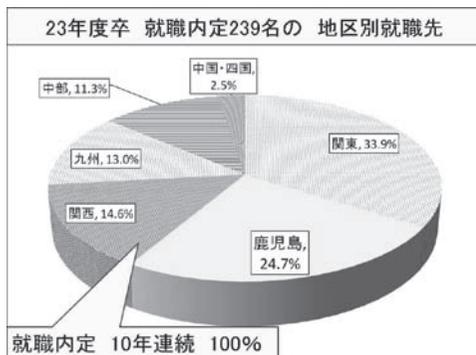
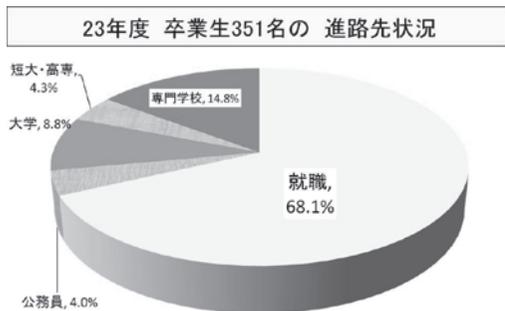
### (1) 進路状況

「類一系」システムを平成3年度に導入し、現在、20年目を迎えた生徒が在籍している。

2年次からの専門課程であるが、卒業時の進路実現に向けて、授業はもちろんのこと資格試験や部活動にも熱心に取り組む生徒が多く、平成23年度は就職が253名（72.1%）、進学が98名（27.9%）であった。

就職については、毎年、県内外から多数の求人があり、10年連続で就職率100%を達成している。職種としては、学校で学んだ専門を活かせる仕事に従事する生徒が多く、関東・関西などの県外就職が中心となっている。

進学については、指定校やAOなどの推薦入学制度を利用する生徒がほとんどであり、国公立大学へは毎年5名程度が進学している。入学時は20名程度が国公立大学への進学を希望していることから、3年間を見据えた進路指導の



工夫が必要である。

### (2) これからの10年に向けて

平成3年に「類一系」システムを導入し、これまで生徒の進路実現に向けた教育課程の編成や資格取得の指導方法の改善に取り組んできた。これからも高等学校学習指導要領を踏まえながら、これからの10年に向けて目指す学校像を三点示してみたい。

一つ目は、「工業専門高校」として課題解決能力を育て、実践的な職業教育を推進することである。夢実現（自己実現）に向かって主体的に学び、高い志をもって社会に貢献できる「知・徳・体」にバランスの取れた人材の育成を目指す。そのために、「ものづくり人材の育成」、「わかる授業」、「希望進路の実現」に重点を置いた教育活動を展開している。

二つ目は、学習活動・学校行事・部活動等に主体的かつ積極的に取り組む中で、「生きる力」を育むとともに集団への帰属意識や他を思いやる心を持って、進路希望の実現や将来にわたる自己実現を目指す。

三つ目は、「すべては生徒育成のために」をスローガンに生徒の学力向上と自立的な生活態度の育成および希望進路の実現に向け、より一層責任感のある指導を行う専門職集団を目指す。

## 5. おわりに

本校は、104年の歴史と伝統を誇り、新時代の新たな「鹿児島工業」を築きつつある。本校の教育活動をさらに充実・発展させ、地域密着型の活動を展開して地域の方々に支持され信頼される学校づくりに、職員やPTAをはじめとする関係者の皆さんとともに取り組んでいきたい。